

青果物輸出産地セミナー&マッチングin愛媛 2023

四国の山奥から世界へ

2024年2月28日



株式会社 阪東食品

目次



- 自己紹介
- 阪東食品の沿革
- 輸出実績
- 海外進出のきっかけ
- 輸出する中での3キーワード
- 主な取り組み
- 課題と対応
- これからと取り組み



自己紹介

阪東 高英(ばんどう たかひで)

- 1968年徳島県上勝町に生まれる。
55歳 O型
- 東洋大学工学部入学
- 卒業後OA機器メーカーの営業として入社
- 輸入車ディーラーへ転職
- 40歳を手前に家業を継ぐ(Jターン)
- 現在に至る



阪東食品の沿革

- 1965年頃 本格的にすだち、ゆず、ゆこうを栽培（面積18405m²）
- 1980年頃 冷蔵すだち（果実）の販売を始める
- 1988年 阪東食品 として事業開始
- 2003年 有機栽培・有機加工食品の認証
（すだち・ゆず・ゆこう・阿波晩茶）
- 2006年 有機ドリンク販売開始
- 2007年 有機ぽんず販売開始
- 2012年 輸出開始
- 2013年 有機（すだち・ゆず・ゆこう）果汁、有機阿波晩茶、
EU向け有機同等性証明取得、ゆずそると販売開始
- 2014年 ハラル認証取得・EU向け輸出用ゆず果実園地登録（輸出）
- 2016年 飲むジュレ販売開始
- 2018年 有機JAS小分け認定取得
EU向け輸出用すだち・ゆこう果実園地登録（現在は休止）
株式会社阪東食品へと法人化
- 2020年 BAKASCO販売開始
- 2024年 小松島事業所 新設



輸出実績(国)

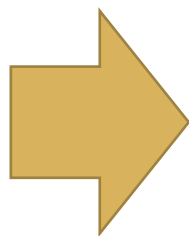
＜欧米＞
ドイツ、フランス、スペイン、
アメリカなど20カ国以上

＜その他＞
オーストラリア
ロシアなど

＜アジア＞
シンガポール、マレーシア、中国、
香港、台湾、ベトナム など

輸出実績（取引アイテム）

- 有機果汁・慣行果汁
- みちこの有機ぽんず
- 有機阿波晩茶
- Citrus Jelly・syrup
- ゆずそと
- ゆずパウダー
- BAKASCO
- 半田そうめん・梅商品等

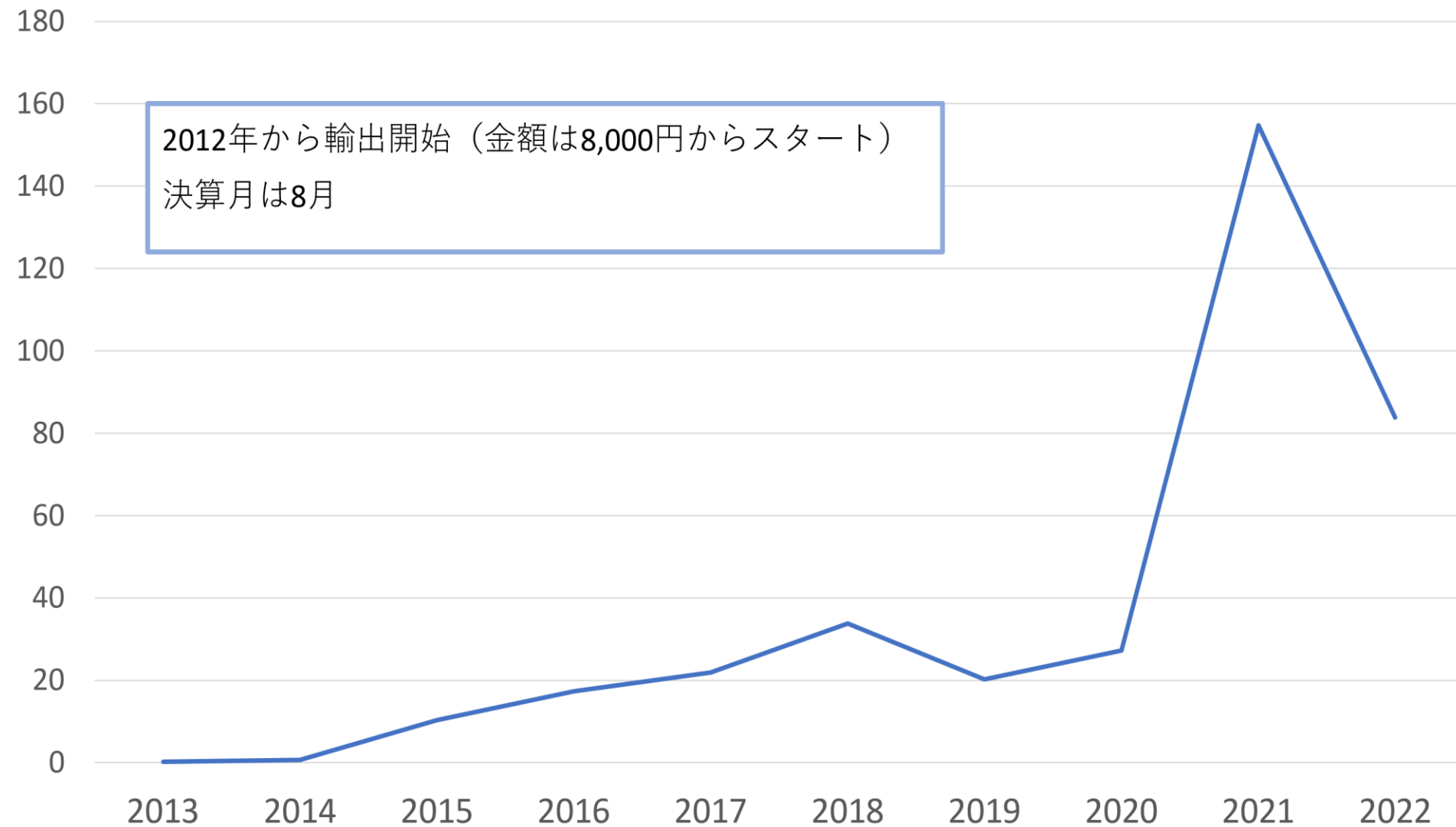


ゆず関連商品が人気！



輸出実績（年度別）2012～

(百万)



海外進出の きっかけ

JETRO(日本貿易振興機構)
輸出セミナーに参加

はじめは言われる
ままに・・・
(上海で商品販売)



海外進出のきっかけ

初めての輸出



2011年
震災が・・・

2012年
もう一度仕切り直し
→スタート（上海）



海外進出のきっかけ

アジアからヨーロッパへ
ドイツ（ケルン）



海外で活動を始めたころの3つのキーワード

- ゆず（抹茶・わさび）
- オーガニック（BIO）
- 「この商品はどこで購入できるのか？」

食の都フランスへ





現在の主なお客様
ホテル・レストラン・パティ
スリー・飲料メーカー等



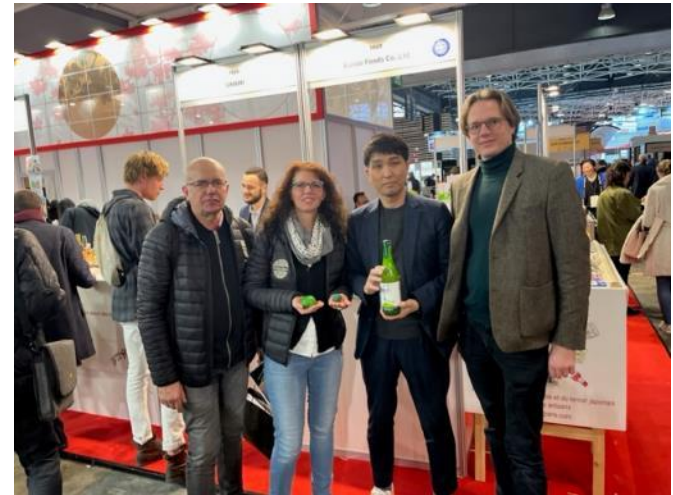


海外販売に向けての 主な取り組み

- 可能な限り出展できる展示会に参加
⇒ JETRO・徳島県ブース等
(単独の出展は、ハードル・コストが高い)
- 海外向け商談会に参加
⇒ 国内・海外で商工会や自治体が開催
- 同行営業
⇒ 海外のパートナーと現地で同行営業

参加した海外商談会など(抜粋)

- FHC上海
- 香港Food EXPO (2010.2011)
- RESTAURANT & BAR HONGKONG(2015)
- ANUGA (2013.2015.2017.2019) @ドイツ
- SIAL (2014) @フランス
- SIRHA(2017.2019.2023) @フランス
- SALON DU CHOCOLAT(2016.2017.2018) @フランス
- マレーシア輸出商談会 (2014)
- シンガポール輸出商談会 (2014.2015.2022)
- Gulfood (2017.2018.2019.2021.2022.2023.2024) U.A.E
- ハラルエキスポ
- CITY SUPER上海 四国フェア・VIPフェア他
- ミラノ万博
- 台湾「四国フェア」・徳島商談会



その他参加多数あり

輸出する中
での3つの課
題と対応

- **言葉**・・・頼れる人がいたら頼る
- **それぞれの国の規制**・・・予め大筋は調べておく
- **輸送（物流・温度帯）**・・・パートナー次第で希望温度帯で輸送可能

輸出取組の工夫

- 特にEUでは有機ゆずを始めとするゆず果汁のニーズが高い。一方、現状、供給量が足りない
 - 産地間連携でカバー
 - 自社のスタンスにあったお客様とお付き合いさせて頂きブランド力強化（決して物量だけではない）
- 各国のニーズに応じ輸送温度帯を変更
 - EU圏：冷蔵、中国・東南アジア・中東方面：冷凍
 - Umami Parisとの連系では、自身で冷蔵コンテナを手配いただき、阪東食品と共同で展示会や営業を行っている
- 販売チャネルについては、ホテル(パストリー部門)が多い
 - デザートの風味付け等で使われるケースがあるため商品開発時に意識

これからの戦略

- 搾汁残渣となる果汁果皮の再利用で販路開拓
- 未開拓エリア及ヘニーズに合いそうな商品を中心に展開
- EUへすだち・ゆこう製品販売強化

今後の課題

- 商品の安定供給
- 人
- スペース

SDGsの取組

有機栽培ゆずの生産・販売拡大

- EU中心に海外市場でのニーズが確認できている有機ゆずは、産地の所得向上・自然環境負荷低減の両面で持続可能性が高い
- 一方、現状供給力不足気味であるため、近隣の有機農家4件＋県外事業者(愛媛県)＋県内JA(果汁買い取り)等と連携しながら、有機柚子の買取・搾汁・販売を進めている

搾汁残渣資源の有効活用

- 従来は産業廃棄物になる農産物(搾汁残渣資源等)は畑の堆肥に回していたが、地元のクラフト商品（コーラ・ビール）開発に活用することで売上向上に貢献
- 今後は、新工場でのオーガニックピューレ・ゆず胡椒も製造予定
 - ハラルエリア向けにも対応予定



産地間連携の取組

- 有機柚子に加えて、慣行栽培の柚子も需要が増えており、**柑橘全体が供給量不足**に陥っている
- 供給不足を解消するため、**近隣の農家4件＋県外事業者(愛媛県)＋県内JA(果汁買い取り)等と連携しながら、有機柚子の買取・販売を進めている**
- 近隣地域での柚子産地：徳島県南部にてJAかいふの実生ゆずをフランス向けに輸出

産地との連携

- **実生ゆずの有機認証取得**を提案した結果、認証取得に向けて前向きに取り組みが始まった
- 近隣県JAと県内事業者と連携して、**中国向けへの柚子輸出**に対応している
- 徳島県内の同業事業者が**柚子製品(ゆず胡椒等含む)**を取り扱っており、他事業者との上手く棲み分けながら商品開発を推進

最後に

- 広い視野を持とう
- 少しの背伸びはしてみよう
- 失敗と経験は自信になってくる
(無駄な経験はないと思う)

ご清聴ありがとうございました。

株式会社 阪東食品
阪東 高英